

# 平成21年度森林総合研究所事業南丹区域再評価 第三者委員会(第1回) 議事概要

1. 実施日 平成21年6月26日(金曜日) 9:30~16:30

2. 場所 京都府南丹市

## 3. 出席者

第三者委員	牛野 正	元京都大学大学院農学研究科 助教授
"	坂本 茂	京都府生活協同組合連合会 事務局長
"	中嶋 康博	東京大学大学院農学生命科学研究科准教授
"	溝口 勝	東京大学大学院情報学環教授
"	山本 千夏	グラウンドワーク東海理事

(敬称略、五十音順)

事務局等 農林水産省農村振興局整備部農地資源課調査官 他  
(独)森林総合研究所森林農地整備センター農用地業務部長 他

## 4. 現地調査の概要

工事実施中、一部供用開始した農業用道路及び区画整理を実施した団地の現地調査を行うとともに、受益者から農業経営の状況、事業の効用発現の状況について聞き取りを行った後、第三者委員による意見交換を行った。

## 5. 第三者委員会の概要

委員長選出

委員長には、全会一致で中嶋委員を選出した。

主な意見・指摘等

環境保全対策後のモニタリングについて、事業完了後も市町村と協力して進めて頂きたい。

農業用道路が完成すると通勤農家の数が増えることが期待出来るので、ITを使って通勤農家がいつでも作物の栽培状況等を確認出来るようなサービスを考えてみてはどうか。

グリーンツーリズムの促進について、評価するのであれば、日吉ダムに隣接した施設の事例等についても評価書に加えてはどうか。

これまで通行条件が不利なために地域振興が遅れてきており、本事業で道路が開通することの効果は大きいことが確認できた。ただし京都縦貫道の開通によって混雑が緩和されていることについては評価書の中で言及して頂きたい。

地域全体にどのような動植物がいるのか、また、環境保全対策の成果を時系列にとりまとめ、それらの情報を地域に提供し、事業のPRをして頂きたい。

本区域の農業は畜産と耕種のバランスが良く、堆肥が有効活用されていることから、バイオマスタウン構想への本事業の貢献を評価書に入れて頂きたい。

産地間競争に負けないためにも、事業効果の早期発現に向けて早め早めの取組を進めていく必要がある。

産地マーケティングやグリーンツーリズムをより一層振興していくため、広域合併した行政や農業団体の間での連携をさらに強化して頂きたい。

第三者委員会の意見とりまとめ等

今回の委員会での意見・指摘を踏まえ、事務局で評価書(案)を再整理し、次回の委員会での第三者委員会としての意見とりまとめを行うこととした。